

事務事業名	管路等情報管理整備事業	整理番号	31404-040
所 管	水道工務課 施設・給水スタッフ		

**事務事業の位置付け**

期間	平成 15年度 ~ 平成 18年度	根拠法令・要綱等	御殿場市水道事業基本計画
基本計画における位置付け	基本政策 3-1 環境の保全と自然との共生 政 策 3-1-4 水資源の確保	関連政策	

**事務事業の内容**

目的 (何のために)	安全で良質な水道水を安定的に供給し市民のニーズに応える。
対象 (誰・何を)	全市民、全事業者
手段 (どのようなやり方で)	水道管路に関する各種情報をコンピューターで一元管理し、業務の高速化、効率化を図るマッピングシステムを構築する。
成果 (どのような状態にしたいか)	水道管路情報の一元化により、市民からの問い合わせ等に対するサービスの迅速化とともに、突発的な事故対応等における迅速かつ的確な情報収集及び意思決定が可能となり、水道水の安定供給が図られる。
事務事業の背景・住民の意向	平成 13 年度に策定した御殿場市水道事業基本計画 (H 1 4 ~ H 2 8) に基づき情報管理のための事業実施。
見直し改善の経過	平成 1 2 ~ 1 3 年度に、御殿場市水道事業の現状をふまえて、安全で良質な水道水を安定的に供給するための施策を検討し、平成 1 3 年度に御殿場市水道事業基本計画 (H 1 4 ~ H 2 8) を策定した。

**事務事業の実績・投入コスト**

年度	事務事業実績	投入コスト(千円)												
平成16年度	水道マッピングシステム構築業務委託発注についての検討 水道マッピングシステム構築及びデータ登録	<table border="1"> <caption>投入コスト(千円)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>直接経費(上段)</th> <th>人件費(下段)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16年度</td> <td>25,000</td> <td>5,000</td> </tr> <tr> <td>17年度</td> <td>30,000</td> <td>5,000</td> </tr> <tr> <td>18年度</td> <td>25,000</td> <td>5,000</td> </tr> </tbody> </table>	年度	直接経費(上段)	人件費(下段)	16年度	25,000	5,000	17年度	30,000	5,000	18年度	25,000	5,000
年度	直接経費(上段)		人件費(下段)											
16年度	25,000		5,000											
17年度	30,000	5,000												
18年度	25,000	5,000												
平成17年度	水道マッピングシステムへの配管等データ入力 水道マッピングシステム評価用システムによる検証													
平成18年度	水道マッピングシステムへの配管等データ入力 システムハードウェア設置及び試験運用システム立ち上げ 水道マッピングシステム本稼働													

**評価指標**

指標名	H16	H17	H18	H0目標
事業進捗率 (%)	40	75	100	100
水道管布設延長 (km)	500	500	500	500
水道管1km当りの事務事業費(千円)	180	180	180	180

**事務事業の評価**

観点別・一次評価 (担当部署の評価)	コメント													
<table border="1"> <tr> <td>観点別評価</td> <td>必要性</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>有効性</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>効率性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一次評価</td> <td colspan="2">A</td> </tr> </table>	観点別評価	必要性			有効性			効率性		一次評価	A		水道管路情報 (水道管網図、管属性、パルプ属性、竣工図等) のアナログデータをデジタル化し、一元管理するための統合システムを構築することで、課内での情報共有が図られ、漏水事故や問合せ等に対する迅速処理が可能となるなど、大きな成果が期待できる。	今後の方向性
観点別評価	必要性													
	有効性													
	効率性													
一次評価	A													
			完了											
二次評価 (行政評価委員会の評価)	コメント													
二次評価	A	システムの適正な運用に努められたい。	今後の方向性											
			完了											

**改革プラン**

平成19年度からの対応	平成 1 8 年度で本システムの構築が完了するが、引き続き市街地周辺の給水管及び未定配管の確定作業を実施すると共に、修繕、布設等の水道管布設位置情報をシステムにフィードバックすることでシステムデータの精度向上に努める。
平成20年度以降の対応	配管布設工事や給水申請されたデータ等の更新とともに、不明管として処理されている配管の確定作業を実施し、これを修正し、システムデータの精度向上に努める。また、仕切弁の調査を行い、この調査の結果をシステムに反映させ配水ブロックの明確化を図る。
改革により予想される成果	システム全体の精度向上が図られることで、より正確、迅速な業務が可能となる。